

様式B

令和6年度 幼稚園 ゆめプラン評価公表シート

和歌山市立宮前幼稚園

教育目標

ゆめ	重点目標	具体的取組		取組の状況
子どもとつくる暮らし	子どものやりたいを一緒に叶える保育を目指して	環境を通してさまざまな体験をする。	四季が感じられる環境	四季折々の木の実や花等に触れ、それぞれの季節が感じられるように、園内にない植物を移植した。また、その自然物を取り入れた保育を意図的に展開することで、より、子どもたちの探求心や言葉、表現の豊かさにつながっているように感じる。
			野菜や花の栽培の充実	テラスで栽培することで、子どもたちは、野菜を身近に感じることができた。また、畑では、子どもたちと土づくりから行うことで、自らかかわって食するまでを楽しむ姿が見られた。
			タイムリーに環境をデザインする。	子どもの姿を捉えて、「今」という時を逃さずに、環境を変化させていくことが大事だと感じた。そのことで、遊びが広がったり、深まったりしている。
		身近な人となつながら楽しむ。	温かさが感じられる雰囲気づくり	子どもの声に耳を傾けることに意識し取り組んできた。また、職員が子どもの様子を共有することで、子どもへのかかわりができるよう取り組んでいる。
			異年齢との交流	午前中の2時間は、園庭や各保育室で、いろいろなクラスが混じれるようにしている。園庭では、かかわりが増え、互いに学び合う姿がある。
			保幼小交流の充実	小学校職員室のホワイトボードに園から交流の貼り紙をしたり、直接、職員同士で連携し、交流が広がっている。保育所との交流は、悪天候のため中止となったため、来年度に向けて計画していきたい。
		子育て支援の充実を図る。	地域との連携	電車を見にお散歩にでかけたり、スーパーに買い物に行ったりすることでいろいろな方と交流できたが、園からの発信などできていないので、今後、取組みたい。
			保護者との連携	連絡アプリを取り入れたことで、園での子どもたちの様子や行事なども、写真付きで、その日に送ることができ、園での取組を知らせるよい場となっている。保護者の思いにどこまで応えて行くか今後の課題である。
			安心できる場所としての役割	未就園児の集いに参加してくれた子どもが入園につながっている。入園までに園の雰囲気を感じてもらい、いろいろな悩みや思いを話せる場になってきている。

保護者アンケート集計結果の比較から見えてきた成果や課題

概ねアンケートでは「とてもそう思う」「思う」を合わせると高い傾向にある。特に質問4の環境については、園の取組について、一定の理解を得ることができたのではないかなと思う。その他の質問については、一人ひとりの思いに寄り添い丁寧な保育を心がけているものの、保護者との信頼関係を築くにあたり、より一層、丁寧さが求められていると感じている。

今年度の取組の成果と課題・今後の改善方策

(成果)昨年度に引き続き、職員同士が保育観を擦り合わせながら、保育の質の向上に向けて取組むことができ、学び合える集団へと変化してきている。また、幼小の交流が活発になることで、互いに学び合い、子どもたちにとってどのような学びができるか一緒に考える機会が増えてきている。

(課題)子どもたちのやりたいの先にどのような力が育まれてきたかを可視化していく。また、保護者の願いや思いもあるが、まずは、子どもが「楽しい」「大好き」と感じる園生活を保護者にも感じてもらえる工夫をする必要がある。

学校(幼稚園)関係者評価委員による自己評価の検証

・今年度より導入している「連絡アプリ」について
 日々の子供の様子や、その日に写真付きで送られてくるので、園の様子がよく分かり、保護者にとって、安心につながっている。園児は、まだまだ、自分の言葉で、伝えることが難しいので、大変よい取組だと思う。

・園での生活を楽しいものにするには、まずは、「早寝、早起き、朝ごはん」に取組むことが大事である。